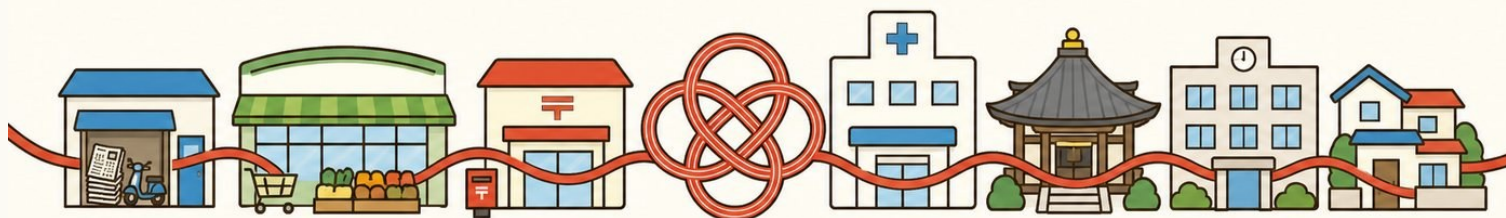


地域のむすびプロジェクト

誰が主催し、誰が支えるのか

新聞販売店を「お困りごと相談窓口」にする、
地域共創プラットフォームの体制と役割分担



事業主体：株式会社両藤舎（中日新聞多治見販売店会） 代表取締役 佐藤円一郎

事業サポート：合同会社むすびdesign（むすびGroup） 代表 三宅直也

プロジェクト顧問：国立長寿医療研究センター 名誉総長 大島伸一

令和8年9月1日 多治見市医師会 御中

医療と介護が拾いきれない、**日常の隙間**を受け止めます

いま起きていること

「これは、どこに頼めばいいのか」

- ・ 電球が替えられない、ゴミが出せない
- ・ 買い物に行けない、書類が出せない
- ・ 庭が荒れている、家具が動かせない

病気のことは先生に相談できても、暮らしの細かな困りごとは相談先が分かりません。放っておくと、生活の乱れが体調の変化につながります。

新聞販売店が持っているもの

毎日、最後の1軒まで届いている

ラストワンマイル

毎日ご自宅の前まで行く物理的な網

社会的信用

数十年かけて築いた、家に上げてもらえる関係

見守り活動

「新聞が溜まっている」に気づく日常の目



この3つを、生活支援の受け皿として作り直します。**悪徳事業者を排除し、安心して相談できる窓口**を地域に1つ置くことが出発点です。

公的な支援は **精華地域包括支援センター**（医療法人仁寿会が指定管理で運営）が担い、そこでは扱いきれない**日常の隙間**を新聞販売店が受け止める。この役割分担が、今回のご提案の骨格です。

役割分担と、責任の所在

監修・信用のレイヤー | 判断の基準をつくり、正しさを担保する



多治見市医師会／薬剤師会／看護協会

気づきの目安と、つなぎ先の監修。医療が必要な段階の線引き



精華地域包括支援センター

公的支援の入口。生活の変化を公的サービスへ接続



ICTでむすぶまちづくり研究所

個人情報の運用規定と、仕組みの監査（将来、非営利法人への移行を検討）

主催・窓口 | 表に立ち、住民から直接お受けする



株式会社両藤舎（中日新聞多治見販売店会）

お困りごとの受付／チケットの発行と精算／訪問するキャストの登録／記録の保管

支える | 裏側の仕組みを、すべて引き受ける



むすびGroup／合同会社むすびdesign

仕組みと運用ルール設計／協賛事業者の募集と審査の事務／各団体との調整／報告と改善

実働のレイヤー | 実際に手を動かし、困りごとを解決する



協賛事業者（地元の専門事業者）

審査を受けた地元の事業者が、専門的な作業を「仕事」として受ける

まちづくりNPO・地域支援組織（RMO）／有償ボランティア（キャスト） — ちょっとした家事援助は12分300円きざみのチケットで。地域の中で仕事と経済が循環します。

新聞販売店に、医療・介護の判断はさせません。 販売店がするのは「気づいて、決められた先へつなぐ」ことだけ。専門的な判断は先生方と地域包括に、仕組みの設計と事務はむすびが引き受けます。**先生方の手間を増やさないことが、この体制の設計条件です。**

公費に依存せず、地域の中でまわす

体制を動かすには費用がかかります。行政の補助金に頼らず、地域の企業からの協賛で自立して運営します。

オフィシャルパートナー企業（限定10社）

110万円 / 年（11万円 × 10社）

本部（両藤舎）の管理費 **55万円**

広域支援グループ（むすび）の活動費 **55万円**

プロジェクト全体の運営・広報基盤を支えていただく枠。地域の中核企業・金融機関などを想定しています。

協賛事業者（市内40社）

440万円 / 年（11万円 × 40社）

新聞販売店（地域支援グループ）の管理費 **110万円**

広域支援グループの活動費 **110万円**

地域の課題解決グループ（NPO・RMO）の活動費 **220万円**

住民の困りごとが「地元の仕事」に変わる枠。集めた協賛の半分は、地域で実際に動く人たちへ配分します。

行政区ごとに **50社・550万円/年** + 仕事が成立したときの紹介手数料が、次の支援の原資になります

医療機関の皆さまに、費用のご負担をお願いするものではありません。 先生方をお願いしたいのは、費用ではなく「気づきの目安づくり」と「つなぎ先としてのご協力」です。

立場ごとに、願うこととお返しできること

地域包括・行政の皆さまへ

1 つなぎ先になってください

- ・ 気づいた変化を、どこへ・どの頻度で伝えればよいかを一緒に決めていただく
- ・ 公的支援が必要な段階の目安をご監修いただく

お返しできること

公的サービスでは拾えない日常の困りごとに、確実な受け皿ができます。相談の入口が1つ増え、重度化の前に気づける機会が増えます。

オフィシャルパートナー企業の皆さまへ

2 基盤を支えてください

- ・ 年額110,000円（税込）・限定10社
- ・ プロジェクト全体の運営・広報の基盤を支えていただく

お返しできること

地域から集まったお困りごと（仕事）の優先的なご紹介。新聞折込での地域貢献企業としてのPR（年4回）。産官学医が連携する地方創生モデルの初期メンバーとしての企業価値。

地域の事業者の皆さまへ

3 解決する側に加わってください

- ・ 年額110,000円（税込）・市内40社
- ・ 審査のうえ「公式協力店」として登録

お返しできること

専門分野に合った地元の仕事を優先的にご紹介します。新聞折込でのPR（年4回）。悪徳事業者を排除した信頼の輪の中で、新しいお客さまと出会えます。

3つのどの立場でも、**窓口は新聞販売店1つ、事務と調整はむすび**が引き受けます。参加していただく皆さまに、新しい事務作業は発生しません。

10月2日、多治見から始めます

令和8年4月21日（実施済み）

ネットスーパーと連携し、
買い物支援がスタート

令和8年9月（本日～）

医師会・地域包括との体制
づくり。協賛のお願いを開始

令和8年10月2日

まごころちょこっとサポ
ート

チケット利用スタート

令和9年以降

多治見・恵那での型を、東
濃圏域の行政区へ横展開

本日、一緒にお願いしたいこと

1. つなぎ先と、頻度

暮らしの変化に気づいたとき、どこへ・どの
ように・どのくらいの頻度でお伝えすればよ
いか。窓口となる方を1名決めていただけ
ると、すぐに動き出せます。

2. 確認書の形

住民・新聞販売店・かかりつけの先生の3者で
交わす確認書。**先生方に診療時間外の対応
義務が生じない形**で整えたいと考えていま
す。

3. 気づきの目安のご監修

「これは伝えてほしい」という変化の目安
を、先生方の視点で一緒に作っていただけ
ないでしょうか。現場が迷わないための、いち
ばん大切なところです。

まごころちょこっとサポート 運営事務局
中日新聞をご購読の方 **0572-22-3500**

ご購入でない方 **070-4497-0111**
受付 10:00～16:00（新聞休刊日と土日祝を除く）

株式会社両藤舎（中日新聞多治見販売店会） 多治見市虎溪町1丁目31
むすびGroup／合同会社むすびdesign 恵那市三郷町野井2106-2